

## 平成30年度第2回宇都宮市民大学運営協議会

日 時 平成30年8月2日（木）  
午前10時30分～  
会 場 人材かがやきセンター研修室  
（中央生涯学習センター5階）

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 議 題

- (1) 平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について・・・資料1
- (2) 平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について・・・資料2
- (3) 平成31年度宇都宮市民大学の実施について・・・資料3

#### 4 そ の 他

- ・宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について  
・・・・・・・・・・資料4

#### 5 閉 会

## 宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間  
(平成28年9月1日～平成30年8月31日)

平成30年4月1日現在

No.	氏 名	所 属 団 体 等 役 職
1	あべ よしこ 阿部 好子	宇都宮大学 企画広報部企画広報課長
2	かわしま やすお 川島 育郎	株式会社栃木放送 報道制作局長
◎ 3	かわもと きよし 川本 清	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
○ 4	こだち ちゅうじ 小太刀 忠治	宇都宮共和大学 事務局長
5	こばやし じろう 小林 治郎	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長
◇ 6	こばり きょうこ 小針 協子	とちぎボランティアNPOセンターぽぽら コーディネートリーダー
◇ 7	のなか まさとも 野中 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
8	はせがわ きょうこ 長谷川 京子	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
9	みこがい ひきお 御子貝 久男	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
10	やまだ たかのり 山田 卓徳	作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 事務局長

(五十音順)

◎ 会長      ○ 副会長      ◇ 監事

## 平成30年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について

### 1 合同開講式・公開講座

#### (1)開催日時

平成30年5月25日（金） 午後2時～午後4時

#### (2)会場

宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 4階

#### (3)参加者数

受講生 158名（出席率48%）

#### (4)合同開講式

##### ア 実施内容

- ・ 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育長 水越 久夫  
宇都宮共和大学 学長 須賀 英之 氏
- ・ 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏
- ・ 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より受講者代表2名へ交付

##### イ 受講者の感想・意見

- ・ 開講式の意義や公開や専門講座をもつ意味などが確認された。
- ・ 開講式はもちろん、関係者の熱意が感じられ、これからの講座への期待も膨らんだ。
- ・ 330名も大勢の受講者が一同に集まり、向学心溢れる皆さんと会えてよかった。各大学持ち回りで開講式・公開講座でよい。
- ・ 本日の開講式の様に交通便のいい場所でいつもやってほしい。交通便の悪いところは出席できず、そして受講料はいつも支払い損。できたら専門講座会場と近いところで受けることを出来る様にしてほしい。

##### ウ 評価

受講者のアンケートでは、約7割が「とても意義がありよかった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。

受講者が一堂に会する唯一の機会であることや、共催事業として宇都宮共和大学で開催したことは、受講者の学習意欲の高揚や満足度の向上に繋がったものと考察される。

#### (5)公開講座

##### ア 実施内容

- ・ 講 師 宇都宮共和大学 シティライフ学部長 教授 山島 哲夫 氏
- ・ テ ー マ 「宇都宮のまちづくり  
～魅力的なまちにするために～」

- ・ 講義内容 宇都宮の人口や住宅、まちなかの様子などから宇都宮の現状と課題について学び、他市の魅力的なまちの事例等からどのように宇都宮を魅力的なまちにしていくかを考えた講座。

#### イ 受講者の感想・意見

- ・ 宇都宮の魅力を再確認でき、大変良かった。
- ・ 少子、高齢化社会における新たな”まちづくり”の必要性・重要性について理解が深まった。
- ・ 地域の活性化で街を元気にするために、高齢化になっても外出しやすい街づくりが大切だと思う。
- ・ 私もできることで宇都宮のまちづくりに協力していきたいと思った。

#### ウ 評価

受講者アンケートでは、「とてもよかった」「どちらかといえばよかった」の意見が89%と、非常に満足度の高い講座であった。

これから人口減少が進む宇都宮のまちづくりについての内容であり、受講者にとって興味・関心の高い講座であった。受講者からは「まちづくりの必要性に気付いた」「まちづくりに参加したい」「宇都宮の未来が楽しみになった」などの声が多く寄せられ、本講座の目的である宇都宮のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がったものと考察される。

⇒ 別紙1参照

## 2 専門講座

### (1) 講座数

6 講座（※公開講座を除いた回数はそれぞれ5回～7回）

### (2) 周知方法

広報うつのみや（平成30年4月号）、市ホームページ、パンフレット、チラシ、新聞記事

### (3) 開催期間

平成30年5月28日～7月20日（公開講座を除く）

### (4) 募集定員等

募集定員320名、応募者数458名、受講者数330名、修了者数298名(90.3%)

### (5) 実施状況

⇒ 別紙2参照



- ◇開催日時:平成30年5月25日(金) 午後2時～午後4時
- ◇開催場所:宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 4階
- ◇受講者数:158名
- ◇アンケート回収数: 104名(65.80%)
- ◇出席来賓:1名
- ◇出席主催者:15名
- ◇運営スタッフ:12名

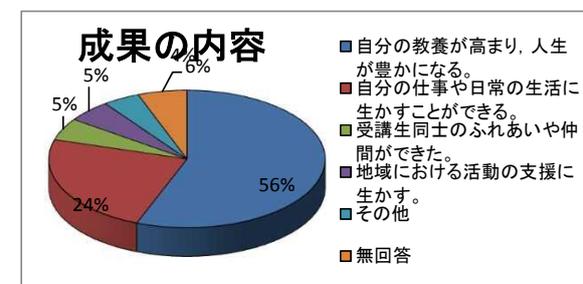
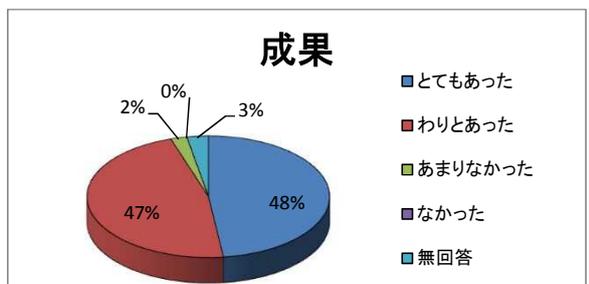
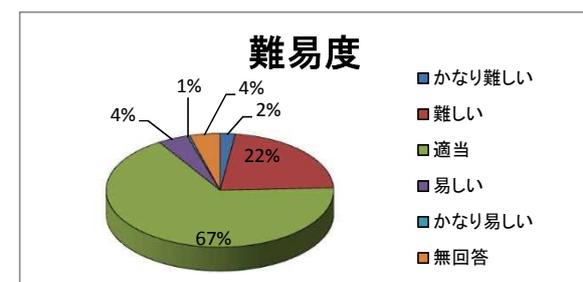
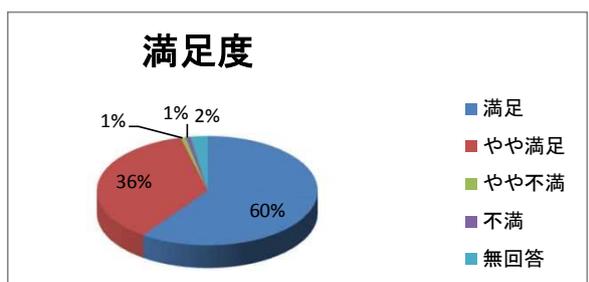
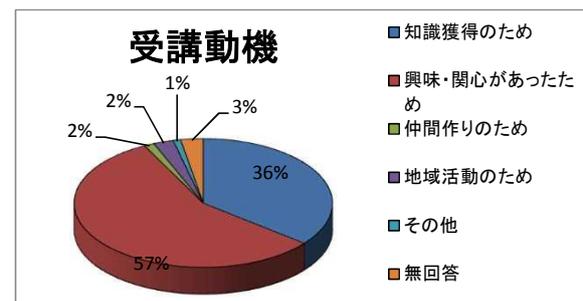
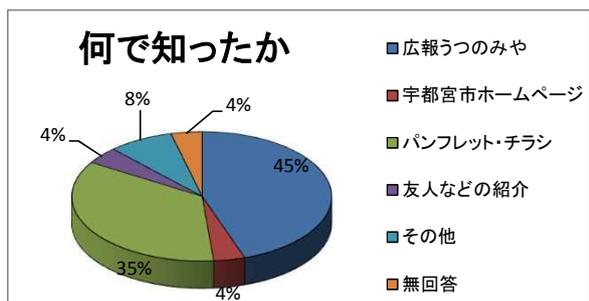
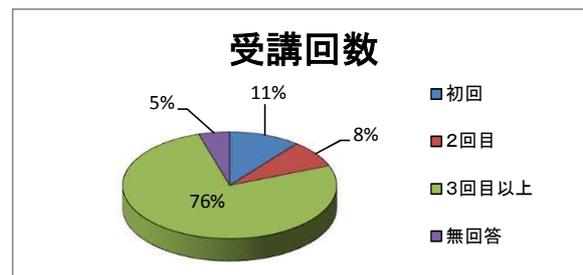
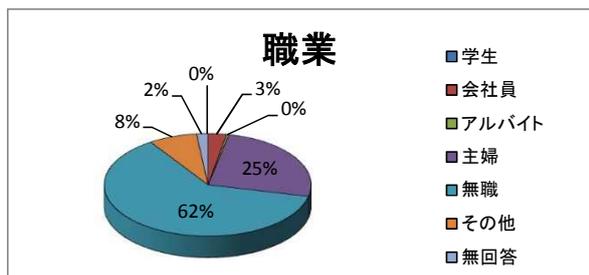
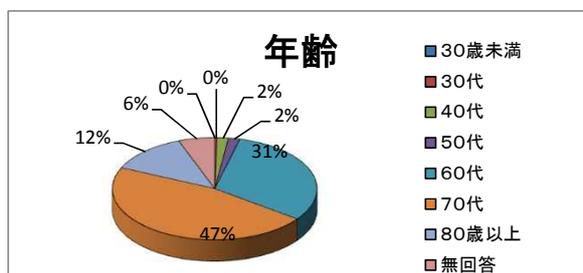
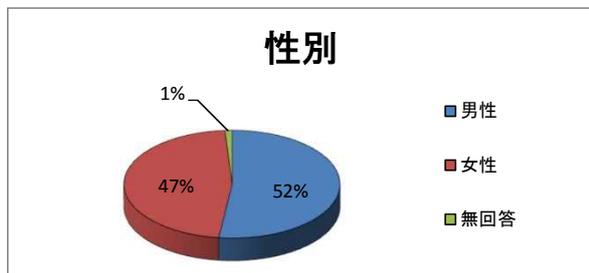
受講者について(全体)		区分	人数	割合
<p>(1) 年齢</p>		1 20歳未満	0	0%
		2 20代	0	0%
		3 30代	1	1%
		4 40代	2	2%
		5 50代	1	1%
		6 60代	39	38%
		7 70代	47	45%
		8 80歳以上	11	11%
		無回答	3	3%
合計			104	100%
<p>(2) 性別</p>		区分	人数	割合
		1 男性	57	55%
		2 女性	42	40%
		無回答	5	5%
		合計	104	100%
<p>(3) 公開講座と専門講座</p>		区分	人数	割合
		1 公開講座のみ受講	0	0%
		2 公開講座と専門講座を受講	103	99%
		無回答	1	1%
	合計	104	100%	
<p>アンケート結果 合同開講式について</p>		区分	人数	割合
		1 とても意義がありよかった	31	30%
		2 どちらかといえば意義があった	41	39%
		3 どちらかといえば意義があるとはいえない	18	17%
		4 意義があるとはいえない	5	5%
		無回答	9	9%
	合計	104	100%	
<p>公開講座について</p>		区分	人数	割合
		1 とてもよかった	66	63%
		2 どちらかといえばよかった	27	26%
		3 どちらかといえばよくなかった	6	6%
		4 よくなかった	0	0%
		無回答	5	5%
	合計	104	100%	

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価
I	悪人か？英雄か？ ～見方を変えると歴史が変わる～ (全7回)	歴史研究家 高橋 昭夫 氏 栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 学芸員 山本 享史 氏	5/28～ 7/9	(50) [146] 85	83 [75] 90,4%	多数の申込みにより定員50名に対し85名を受講決定としたが、出席率、修了率ともに高く熱心が伺えた。講義は理解しやすく、資料の地図や写真は見やすく文字が大きかったので受講者に好評であった。悪人が英雄かの評価は受講者に委ね考えさせることで、定説に囚われない歴史の楽しさを学ぶことができた。単純明快なテーマへの期待通り、受講者の知的好奇心や学習意欲を高めた講座になった。
I	住みやすい都市と環境を考える (全6回) [宇都宮共和大学連携講座]	宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授 寺内 孝夫 氏 准教授 大石 和博 氏 専任講師 西山 弘泰 氏 宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 桂木 奈巳 氏 講義 教授 高柳 恭子 氏 専任講師 丸橋 亮子 氏	6/1～ 7/6	(30) [28] 28	26 [22] 84.6%	連携講座につき宇都宮共和大学を会場に講座を実施した。環境が良く学生と同じ学び舎での講座は、受講生にとっては向学心がそそられる機会になった。「住みやすい都市と環境を考える」とのテーマのもと、子どもの成長と人権、都市の環境のあり方を、それぞれ専門とする講師の講義により、身近な問題として自分たちや家族が住みやすい都市と環境の実現に向け考えるいい機会となった。
I	中世宇都宮一族の文化力 ～「宇都宮歌壇」の成立と 和歌をめぐる～ (全6回)	立正大学 文学部 教授 渡邊 裕美子 氏	6/5～ 7/10	(70) [71] 71	64 [58] 90.6%	武士が和歌を詠むようになった背景から始まり、和歌の歴史や中央歌壇の動き、鎌倉歌壇の成立と順序立てながら、宇都宮歌壇の成立まで講義いただいた。宇都宮歌壇に属する武家歌人の勅撰集入集歌等を紐解くことで、中世の地方都市に生きた人々の生活やその時々的心情が感じ取れ、宇都宮歌壇の豊かな世界に触れることができた。
II	希望と共に生きる ～新しい知識と、 生きる力と仲間たち～ (全5回)	栃木県立がんセンター病理診断科 医師 平林 かおる 氏 栃木県立がんセンター検査技術科 臨床検査技師 岡田 佑衣子 氏 臨床検査技師 枝 明日美 氏 宇都宮セントラルクリニック放射線科 医師 佐藤 俊彦 氏 済生会宇都宮病院緩和ケア科 医師 粕田 晴之 氏	6/2～ 6/30	(50) [49] 49	47 [44] 93.6%	唯一の土曜日午前開催の講座であったが出席率が高く、がんキャリアと思われる受講生も見受けられ、質問等も積極的に行われた。医療現場の最先端で働いている医師や臨床検査技師から、発症率の高い病例、早期発見のための検査方法、最新の放射線治療、そしてホスピスや在宅医療まで講義いただいた。講師は専門的な難しい文言も丁寧に説明され、個別の質問も多く、休憩時間を割いてまで対応され、身近な病である「がん」を正しく理解することで希望や尊厳を再確認できる機会となった。
II	自然災害にどう対処する？ ～多発する自然災害への備え～ (全7回)	気象庁宇都宮地方気象台 職員 株式会社下野新聞社 大田原総局長 論説委員 三浦 一久 氏 宇都宮市行政経営部危機管理課 職員 栃木県県民生活部危機管理課 職員 NPO法人栃木県防災士会 理事長 稲葉 茂 氏 栃木県立博物館 学芸員 柏村 勇二 氏	6/7～ 7/19	(50) [30] 30	28 [26] 92.9%	期間中に大阪北部地震や西日本豪雨もあり、それぞれの受講生は自分の事と捉え、積極的に質問したり、見学や防災グッズの作成等も、熱心に取り組んでいた。講師は、気象予報・行政の危機管理・報道・防災・地質学等の様々の専門的な立場から自然災害について説明され、どの講師も日本に住む限り自然災害はどこでも起こりうることを前提に、自助、共助の大切さを強調された。実際の災害時に役に立つ具体的な対処の仕方を学ぶ機会となった。
III	慈覚大師円仁 ～その魅力を探る～ (全7回)	栃木県立博物館 名誉学芸員 千田 孝明 氏 國學院大學栃木短期大学 教授 酒寄 雅志 氏 大慈寺 住職 林 慶仁 氏	6/8～ 7/20	(70) [134] 85	82 [73] 89.0%	郷土が誇る高僧慈覚大師円仁を、諸説ある出生地や生い立ちから比叡山での天台宗の礎を築くまでの偉大な業績を、出家した大慈寺の住職をはじめとした講師により、郷土が生んだ世界的偉人「円仁」の魅力を見出す機会となった。募集定員に対し申込多数だったため定員数を増やしての対応となり、毎回出席率も高く受講生の興味・関心が深まった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	320人	【総合的な評価】 6講座中3講座について定員を超える申込みがあり、4講座で修了率が90%以上と高く大変好評だった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の95%を占めた。(参考1参照) これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	
			応募者数	458人		
			受講決定数(開講前)	348人		
			受講者数(開講後)	330人		
			修了者数	298人		
			修了率(修了者/受講者)	90.3%		

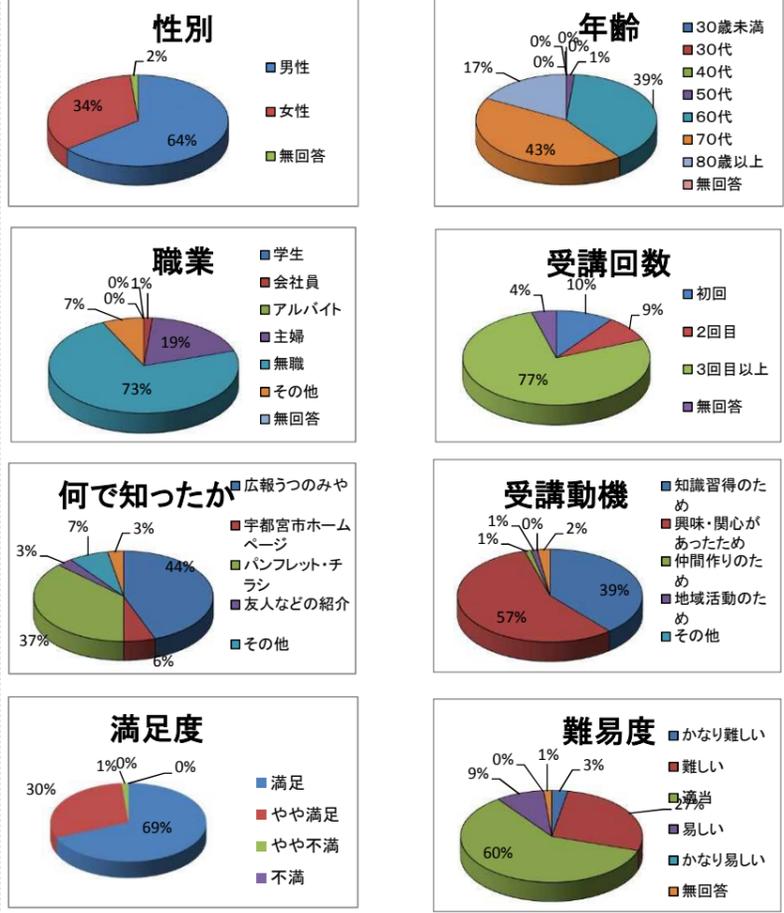
(参考)受講者の感想・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究に基づく話で大変参考になり視野が広がった。</li> <li>・図書館で関連図書を借りて読んだ。</li> <li>・尊氏が「公権力に基づく統制理論」に変化していく過程を引き続き学ぶ機会がほしい。</li> <li>・公開講座と専門講座は内容が関連していないのに出席日数に含むのはいかがなものか。検討してほしい。</li> <li>・3人の人物を掘り下げるには、限られた時間と回数の中では難しく思った。時間をかけて欲しかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな子供の視点など面白い内容だった。</li> <li>・空き家問題は詳細データをもとに勉強になったが、どうすればよいかの考えを聞きたかった。</li> <li>・テーマ・サブテーマから内容が外れている(2名)</li> <li>・やさしい環境経済学、説明が一方的で乱暴(効率、利便性、優先や選択が説明されていない)</li> <li>・タイトルから「都市計画や住環境の未来図」などの講義を期待したが期待外れだった。</li> <li>・高齢化に伴った都市計画の考え方も聞きたかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮でこれほどの和歌が詠まれていたとは初めて知った。和歌に興味を持つことが出来た。</li> <li>・宇都宮歌壇が全国的にも希有な存在であったこと、宇都宮一族の中にこれ程多く勅撰集にのった歌人が居た事等を知る事ができた。</li> <li>・単なる事実でなくその意味を話していただき大変ためになった。</li> <li>・初めはよく解らなかつたが回を重ねるにつれて大分解ってきた様に思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の病気について希望が持てた。</li> <li>・がんを知り、その素性から、取り組みの最新情報、紹介などが良かった。</li> <li>・通常伺えない病理の先生のお話は解り易くよかった。</li> <li>・がんについて多角的な視点から学ぶことができた。</li> <li>・がんについて何も知らなかつた。専門的な言葉が多く、理解するのが難しかった。</li> <li>・後日「メディカルカフェ」に参加させていただきたいと思った。</li> <li>・病と健康が身近になり自分の事としての学びになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が相手だけに、心構えと準備が必要と痛感した。</li> <li>・日本は自然災害の多い国であることを理解し出来ることを実行することの大切さを学べた。</li> <li>・気象庁、新聞社の方、行政の方と様々な分野の講師の経験を生かした講義を聴けて良かった。</li> <li>・警報・勧告・指示の区分がわかった。</li> <li>・出前講座を有料講座にするとき、お金に見合った内容の検討も必要ではないか。</li> <li>・5年一昔の時代、5年に1度は災害の講座が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の偉人としての認識を今回の受講によって学習出来た事が良かった。学生時代の社会科の歴史で学んだ遣唐使など本当に理解が甘かった事を実感した。</li> <li>・話を聞いて円仁がとても身近になった。</li> <li>・栃木県の偉人としての評価が地元で広まっていない感じがして残念。</li> <li>・名前は知っていたが功績等は良くわからなかつたので勉強になった。</li> </ul>
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規受講者の取り込み 新たな受講者を取り込むため、市民大学への関心を高める講座設定や広報の方法を検討するなどの仕掛けが必要である。</li> <li>・幅広い学習内容での講座の実施 市民の知的好奇心を満たし、生活に潤いや生きがいを与える講座を開催するためには、受講者ニーズの高い歴史や文学等の趣味教養的な講座のほか、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座を実施していく必要がある。</li> </ul>

平成30年度宇都宮市民大学前期専門講座 アンケート結果

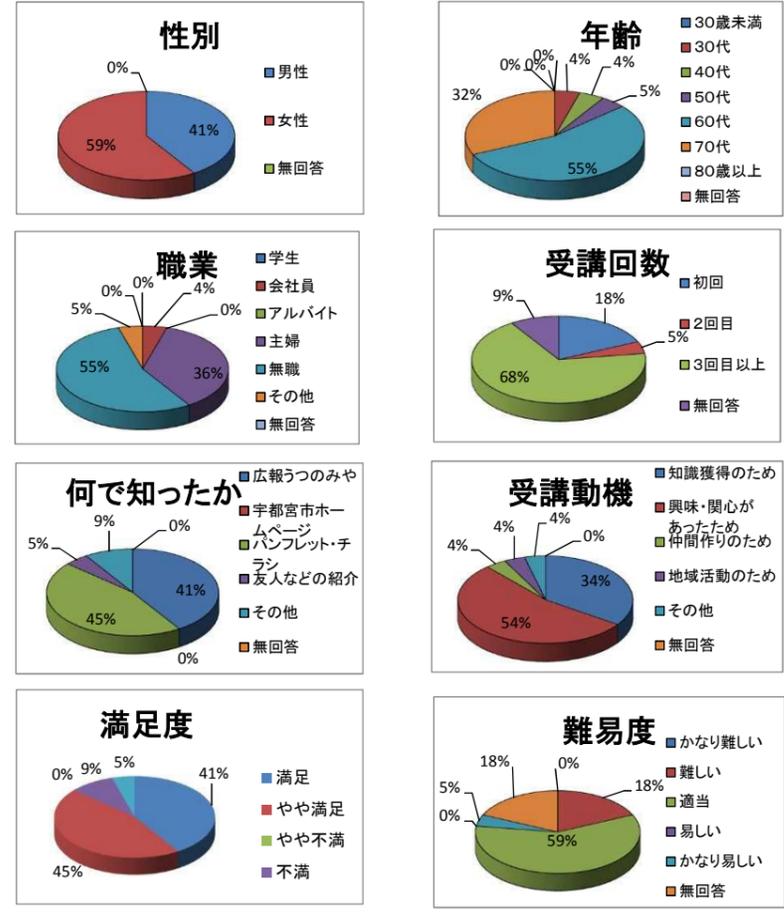
- 1 受講者数 330名
- 2 アンケート回答数 279名
- 3 アンケート回収率 84.5%



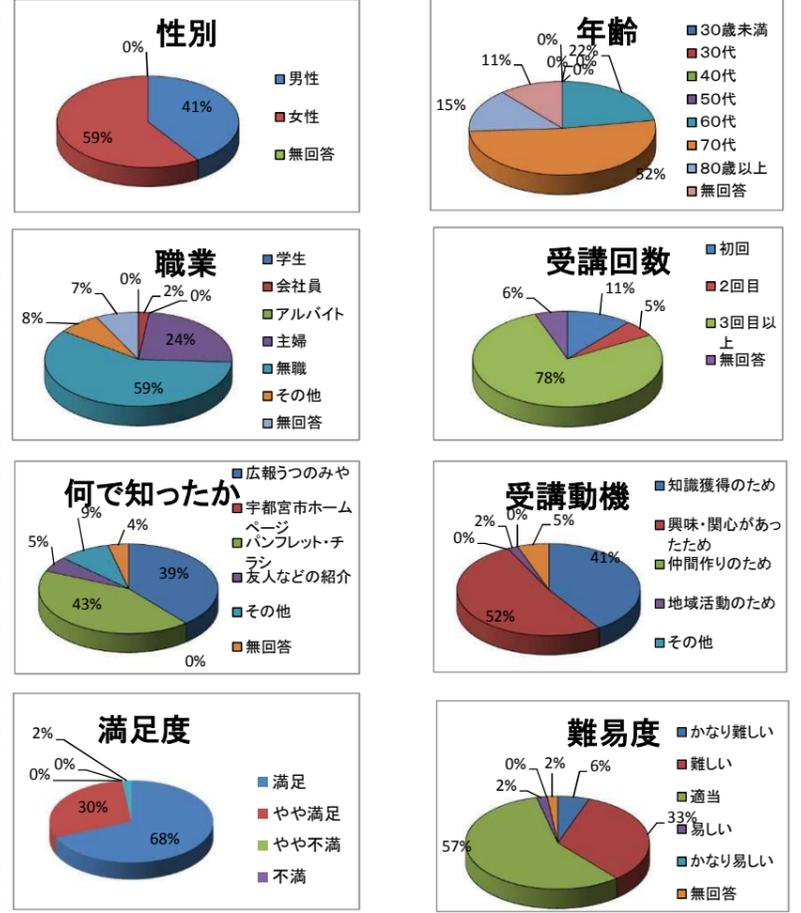
①悪人か？英雄か？ ～見方を変えると歴史が変わる～



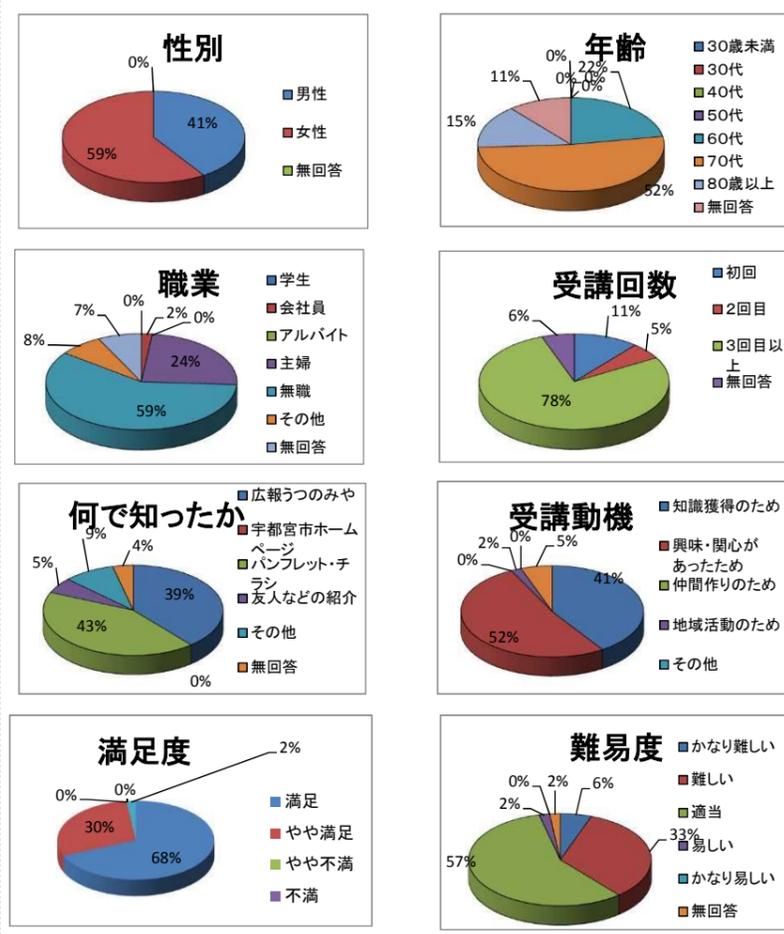
②住みやすい都市と環境を考える



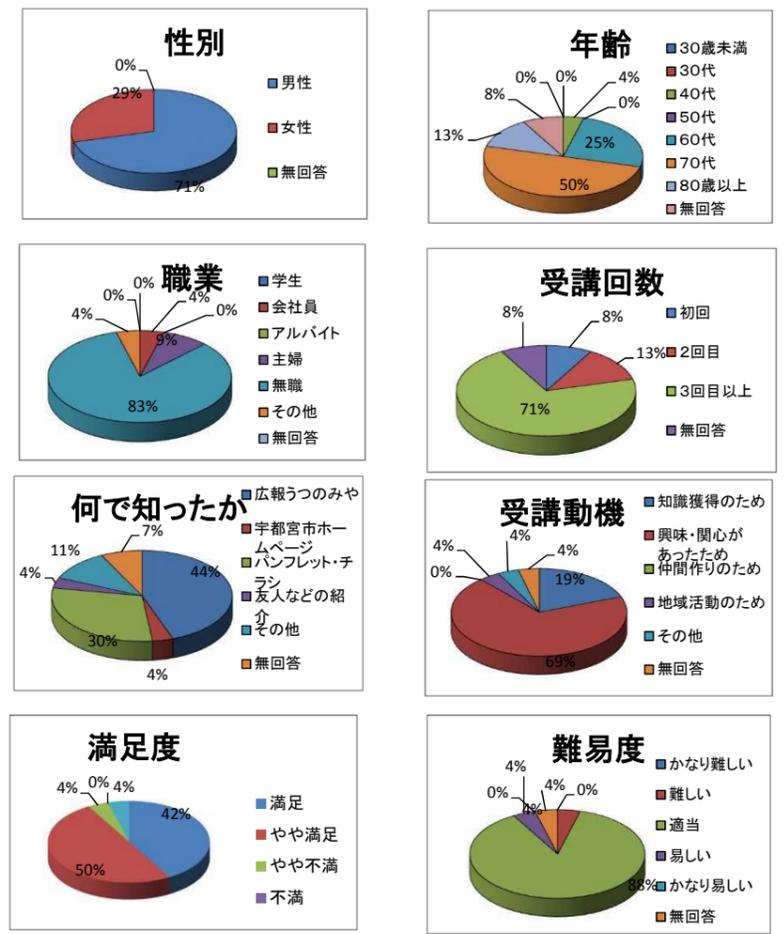
③中世宇都宮一族の文化力 ～「宇都宮歌壇」の成立と和歌をめぐって～



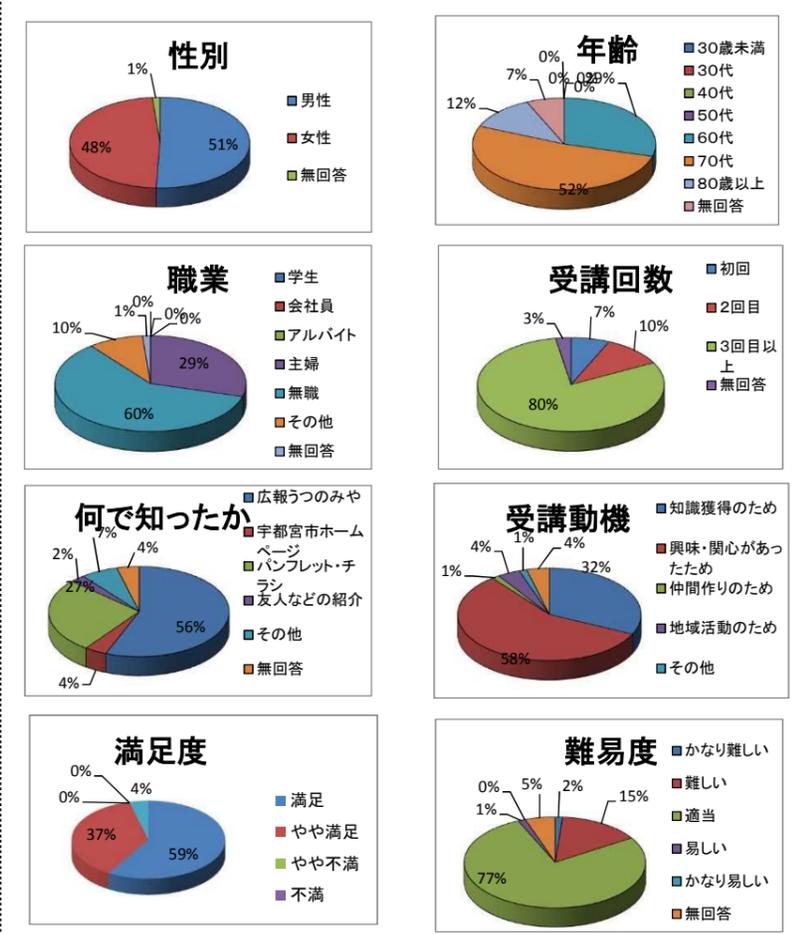
④希望と共に生きる ～新しい知識と、生きる力と仲間たち～



⑤自然災害にどう対処する？ ～多発する自然災害への備え～



⑥慈覚大師円仁 ～その魅力を探る～



## 平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施について

## 1 合同開講式

専門講座受講者を対象に、合同開講式を開催する。

ア 日時 平成30年10月25日(木) 午後2時～午後2時20分

イ 会場 帝京大学 宇都宮キャンパス

## 2 公開講座

専門講座受講者及び一般市民を対象に、公開講座を開催する。

ア 日時 平成30年10月25日(木) 午後2時30分～午後4時

イ 会場 帝京大学 宇都宮キャンパス

ウ 内容 演題 心とからだの健康寿命 ～豊かな老年期を迎えるために～  
講師 帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科 准教授 小林恒之 氏

## 3 専門講座

講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座(No.1, No.3, No.4, No.6)、大学連携講座(帝京大学)(No.5)、事務局企画講座(平成29年度講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了生企画講座)(No.2)を実施する。

ア 開催期間 平成30年10月～12月

イ 開催回数 6回～8回(公開講座1回を含む)

## 【後期専門講座内容】

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間帯)
1	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース (全6回) 修験の世界 日光山の歴史と信仰	10月29日～12月3日 (月曜日 午後)
2	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース (全8回) 大地の公園「ジオパーク」 ～地域の自然構造を知り・自然に学ぶ～ 【平成29年度Vスタッフ養成講座修了生企画講座】	11月1日～12月13日 (木曜日 午前)
3	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース (全8回) 宇都宮市の近現代Ⅱ ～戦後のあゆみ～	11月2日～12月21日 (金曜日 午前)
4	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース (全8回) 笑いの健康学 ～いつまでも笑って暮らすために～	10月30日～12月11日 (火曜日 午前)
5	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース (全7回) 健康寿命を延ばすにはどうする？ ～様々な分野から学ぶ～ 【帝京大学連携講座】	11月1日～12月13日 (木曜日 午後)
6	Ⅲ 暮らしを彩る教養コース (全8回) 俳句と絵画 ふたつの道の達人「蕪村」を学ぶ ～「蕪村」号は宇都宮から始まった～	11月2日～12月21日 (金曜日 午後)

※ 講座の実施会場は、人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)

※ 各専門講座の(開講数)は、「公開講座」を1回分として含む

※ 午前⇒10時から正午、午後⇒2時から4時

## 平成 31 年度宇都宮市民大学の実施について（案）

### 1 平成 31 年度市民大学の実施について

#### (1) 開催方針

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

平成 31 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による、高度で専門的な内容で講座を実施するとともに、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」の基本目標でもある、一人ひとりが人間力を高めるため、主体的な学習活動に取り組めるよう、多様化する市民ニーズへの対応や、社会的課題、旬の話題を積極的に取り入れるなど、幅広い学習内容で展開することにより受講者満足度の向上や、これまで未実施の曜日や時間帯などにも積極的に講座を実施することで新規受講者の獲得を図る。

#### (2) 専門講座の実施方法等

専門講座のコース設定及び講座実施数については、平成 30 年度同様の 3 コース 12 講座とする。

##### ① コース設定（3 コース）

###### ア 郷土を愛する地域・文化・歴史コース

地域の歴史や文化、産業、自然、民俗など地域の特質を学び、郷土に誇りや愛着をもつための講座

###### イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き、暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

###### ウ 暮らしを彩る教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

##### ② 講座実施数（12 講座予定）

###### ア 前期（5～7月） 6 講座

・内訳 V スタッフ企画 - 5 講座，大学連携 - 1 講座

###### イ 後期（10～12月） 6 講座

・内訳 V スタッフ企画 - 4 講座，大学連携 - 1 講座，事務局企画 - 1 講座

### ③ Vスタッフ企画講座の選考方法

#### ア 募集要項

⇒ 別紙3参照

#### イ 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため、専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。

なお、Vスタッフのスキルアップと、講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として、Vスタッフの希望者に対して、選考委員会の傍聴及び模擬審査への参加を認める。

#### ウ 企画講座の決定

講座企画運営選考委員会の選考結果を踏まえ、運営協議会において決定する。

### ④ 受講者の決定方法

#### ア 申込者が募集定員以内の場合

- ・申込者全員を受講者として決定

#### イ 申込者が募集定員を超えた場合

- ・講師等との調整により、定員の増員について検討を行う
- ・次の人を優先的に受講決定後、抽選を行う

- ① 今回初めて市民大学に申込をした人
- ② 前回申込をしたが抽選の結果落選となり、講座をひとつも受講できなかった人
- ③ 今回複数の講座に申込をしており、その講座すべてが抽選となる人

#### ウ 抽選に漏れた申込者の救済措置

- ・キャンセルが発生した場合、キャンセル枠を落選者に提供する。(申込順)

### (3) 合同開講式・公開講座の実施について

- ① 合同開講式・・・専門講座受講者を対象とする。
- ② 公開講座・・・専門講座受講者及び一般市民を対象とする。
- ③ 大学連携講座・・・前期 宇都宮短期大学 長坂キャンパス (予定)  
後期 宇都宮大学 峰キャンパス (予定)

#### 【実施会場一覧】

	前 期	後 期
平成 23 年度	宇都宮大学 峰キャンパス	宇都宮市立南図書館
平成 24 年度	宇都宮共和大学 長坂キャンパス	帝京大学 宇都宮キャンパス
平成 25 年度	宇都宮短期大学 長坂キャンパス (20周年記念講演会扱い)	宇都宮大学 峰キャンパス

平成 26 年度	文星芸術大学	作新学院大学
平成 27 年度	宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス	帝京大学 宇都宮キャンパス
平成 28 年度	宇都宮短期大学 長坂キャンパス	宇都宮大学 峰キャンパス
平成 29 年度	文星芸術大学	宇都宮市役所
平成 30 年度	宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス	帝京大学
平成 31 年度	宇都宮短期大学 長坂キャンパス (予定)	宇都宮大学 峰キャンパス (予定)

## 2 今後のスケジュール (予定)

- 8 月下旬 第 2 回講座企画・運営ボランティアスタッフ連絡会議の開催
  - ・平成 3 1 年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項等の説明
- 1 0 月中旬 宇都宮市民大学専門講座企画募集の締め切り・書類審査
- 1 1 月上旬 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の開催
  - ・プレゼンテーション審査及び企画選考
- 1 1 月下旬 第 3 回宇都宮市民大学運営協議会の開催
  - ・実施企画の決定

## 平成 3 1 年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項（案）

### I 平成 3 1 年度宇都宮市民大学の実施について

#### (1) 開催方針

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

平成 3 1 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による、高度で専門的な内容で講座を実施するとともに、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」の基本目標でもある、一人ひとりが人間力を高めるため、主体的な学習活動に取り組めるよう、多様化する市民ニーズへの対応や、社会的課題、旬の話題を積極的に取り入れるなど、幅広い学習内容で展開することにより受講者満足度の向上や、これまで未実施の曜日や時間帯などにも積極的に講座を実施することで新規受講者の獲得を図る。

#### (2) 専門講座の実施方法等

専門講座のコース設定及び講座実施数については、平成 3 0 年度同様の 3 コース

1 2 講座とする。

##### ①コース設定（3コース）

###### ア 郷土を愛する地域・文化・歴史コース

地域の歴史や文化、産業、自然、民俗など地域の特質を学び、郷土に誇りや愛着をもつための講座

###### イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

###### ウ 暮らしを彩る教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

## ②講座実施数 12講座

ア 前期（5～7月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 5講座，大学連携 - 1講座

イ 後期（10～12月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 4講座，大学連携 - 1講座，事務局企画 - 1講座

## ③館外学習の実施について

ア 館外学習における事前調査行程表は，企画者が作成する。

イ 選考委員会において上位の成績を納めた企画に館外学習が予定されている場合は，講座を実施する上で現地学習が必要性を，企画者が作成した事前調査行程表を基に事務局が判断し，内容に応じて現地学習から座学へ変更することもある。

ウ 館外学習実施が確定した企画において，企画者が作成した事前調査行程表の内容が適切か，また安全上問題はないかを事務局が現地に赴き確認する。

エ 受講者の館外学習における費用は，実費負担とする。

オ 館外学習における講師，企画者及び事務局同行者の費用は，事務局が負担する。

（企画者がグループの場合は上限3名分とする）

## ④Vスタッフ企画講座の選考方法

ア 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため，専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。

なお，Vスタッフのスキルアップと，講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として，Vスタッフの希望者に対して，選考委員会の傍聴及び模擬審査への参加を認める。

イ 企画講座の決定

講座企画運営選考委員会の選考結果を踏まえ，運営協議会において決定する。

## II 市民大学専門講座の募集概要

次のとおり、専門講座の企画を募集する。

### 1 募集分野（コース）

- (1) 郷土を愛する地域・文化・歴史コース
- (2) 今を読み解く現代社会コース
- (3) 暮らしを彩る教養コース

※ 1 ページ I (2) ①コース設定参照

### 2 募集講座数

各コース合わせて9講座

### 3 応募資格

Vスタッフの個人またはグループを対象とする。

- ・平成13年度～17年度 宇都宮市生涯学習ボランティア養成講座修了生
- ・平成18年度～25年度 宇都宮市生涯学習コーディネーター養成講座修了生
- ・平成27年度～29年度 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了生

### 4 応募方法

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）を作成し、応募申込書を添えて平成30年9月21日（金）から10月5日（金）までに宇都宮市民大学事務局（人材かがやきセンター内）に直接またはメール、郵送（必着）で提出すること。

※ 応募書類の返却は不可

※ データが必要な方は、[college@city.utsunomiya.tochigi.jp](mailto:college@city.utsunomiya.tochigi.jp) までご連絡ください。

### 5 講座決定までの流れ

#### (1) 予備審査の実施

応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。

#### (2) 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の実施

書類審査を通過した企画は、平成30年11月上旬に、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施する。講座企画運営選考委員会の日程については、応募書類提出時に連絡する。

#### (3) 宇都宮市民大学運営協議会における審議

上記選考委員会の審査結果を運営協議会に報告し、審議の上、採用する企画を決定する。選考結果については、応募者全員に通知する。

## 6 講座企画者の役割

採用された講座の企画者は、講座企画運営選考委員会の意見を取り入れるとともに、事務局担当者と協力して、講座内容のより一層の充実を図っていく。

また、講師との調整、広報紙等の校正協力、館外学習がある講座は事前調査を行うほか、講座当日の会場設営・進行・後片付けなど講座開催に関する業務を、別途募集する運営スタッフと協力して主体的に担う。

## 7 講座企画上の留意点

- (1) 講座回数は6～7回を標準として、8回を限度とする。(公開講座を除く)
- (2) 1回の講座時間は2時間。
- (3) 館外学習は1講座につき1回限りとする。(館外学習は2時間の枠にこだわらず、1日の範囲内で時間設定ができることから、企画書には概ねの時間及び場所を明記すること)
- (4) 開催時期については、前期講座は5月～7月、後期講座は10月～12月とし、同じ曜日、同じ時間帯を原則とする。
- (5) 講座開催会場は、人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)を使用すること。それ以外の会場を使用する場合は、企画書に必要性を併せて明記すること。
- (6) 受講料は、開講時に事務局が徴収する。(1回500円×講座回数分)
- (7) 受講料のほかに材料費やテキスト代、館外学習における見学科等の実費が想定される場合は明記すること。
- (8) 全ての講座において、託児サービスを設ける。(館外学習時を除く)
- (9) また、営利目的や特定の政党・候補者の利害に関すること、特定の宗教・教派・宗教・教団を支援する内容は認められない。
- (10) 講座の講師予定者と事前に連絡や相談などを行う場合には、講座は企画の段階であり、講座開催が確定していない旨を説明し、講師に誤解を与えることのないよう留意すること。
- (11) 講師依頼の際の謝金については、市民大学では別添資料「市民大学における講師謝金」に基づき支出している旨を説明する。該当区分を判断できない場合は、事務局に相談すること。(交通費については、県内通勤の講師を除き、県外からの講師にのみ支給する。ただし、車両での来場は支給の対象外とする。)
- (12) 講座決定後、館外学習を実施する場合は、予定している行程表を作成すること。

## 8 その他

- (1) 募集期間中における応募状況や他の企画内容についての問い合わせは不可とする。
- (2) グループ企画については、通知等をグループ代表者に一括して送付する。
- (3) 平成31年度の講座数は、Vスタッフ企画9講座、大学連携講座2講座、事務局企画1講座とする。

### 【大学連携】

平成29年度 文星芸術大学，作新学院大学

平成30年度 宇都宮共和大学，帝京大学

平成31年度（予定） 宇都宮短期大学，宇都宮大学

- (4) 採用された企画には、企画運営に必要な費用を講座企画運営費として実費を交付する。（予定）（平成30年度実績：1講座3万円を上限）
- (5) 募集要項に記載のない事項については、事務局に確認すること。
- (6) 企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）について、データ提供を希望する場合は、事務局に申し出ること。

## 平成31年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書

平成30年 月 日

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）のとおり、  
平成31年度宇都宮市民大学専門講座企画募集に応募いたします。

代表者 氏名	
住所	〒 宇都宮市
連絡先等	(自宅) 028 ( ) (FAX) 028 ( ) (携帯) - - (Email)
備考	

※ 個人情報については、宇都宮市民大学事業に使用させていただきます。  
目的以外には使用いたしません。

※ 御不明な点は、生涯学習課（632-6332）担当：高田まで  
お問い合わせください。

## 平成年 3 1 度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称)			
	企画者氏名 (養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	1	(平成 年度)	5	(平成 年度)
	2	(平成 年度)	6	(平成 年度)
	3	(平成 年度)	7	(平成 年度)
4	(平成 年度)	8	(平成 年度)	

1	コ ー ス 分 類	<input type="checkbox"/> 郷土を愛する地域・文化・歴史コース	<input type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース
		<input type="checkbox"/> 暮らしを彩る教養コース	
2	講 座 名 サブタイトル	「 _____ 」 ~ ~	
3	希 望 期 間	○第1希望 ( )	期 ① 前期 (5月~7月)
		○第2希望 ( )	間 ② 後期 (10月~12月)
4	希 望 曜 日 時 間 帯	○第1希望 曜日 時間帯 ( )	①午前 (午前10時~正午)
		○第2希望 曜日 時間帯 ( )	②午後 (午後2時~4時)
		○第3希望 曜日 時間帯 ( ) ※水曜日の午前, 午後は一般研修等により 研修室は使用できません。	③夜間 (午後6時30分 ~8時30分)
5	定 員 (理由)	<input type="checkbox"/> 50名 <input type="checkbox"/> 80名 <input type="checkbox"/> その他 ( 名) (理由)	
6	内 容	全 回 詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり (公開講座を除く)	
7	会 場	・人材かがやきセンター研修室	



平成31年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称) あさひ <b>企画代表者に○を付け</b>			
	企画者氏名(養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	①	栃木 太郎 (平成13年度)	5	横川 明子 (平成19年度)
	2	宇都宮 花子 (平成13年度)	6	国本 美子 (平成22年度)
	③	平石 次郎 (平成14年度)	7	中央 四郎 (平成24年度)
4	清原 三郎 (平成17年度)			養成講座修了年度を記入 (平成 年度)

1	コ ー ス 分 類	<input type="checkbox"/> 郷土を愛する地域・文化・歴史コース <input type="checkbox"/> 暮らしを彩る教養コース <input checked="" type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース
2	講 座 名 サブタイトル	「今こそ陶芸から学ぶ」 ～世界, 地域, 教育の視点から陶芸について考える～ <b>当てはまるコースの口を塗りつぶす</b>
3	希 望 期 間	<input type="radio"/> 第1希望 ( ① ) <input type="radio"/> 第2希望 ( × ) <input type="radio"/> 前期 (5月～7月) <input type="radio"/> 後期 (10月～12月)
4	希 望 曜 日 時 間 帯	<input type="radio"/> 第1希望 火 曜日 時間帯 ( ① ) <input type="radio"/> 第2希望 水 曜日 時間帯 ( ② ) <input type="radio"/> 第3希望 木 曜日 時間帯 ( ① ) ※水曜日の午前, 午後は一般研修室 り研修室は使用できません。 <b>講座の開催曜日を第3希望まで記入</b>
5	定 員 (理由)	<input type="checkbox"/> 50名 <input type="checkbox"/> 80名 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 30名) (理由) 実技を行うのに, 適切な人数であるから。
6	内 容	全 7 回    詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり (公開講座を除く)
7	会 場	・人材かがやきセンター研修室

8	受講料	4,000円(8回×500円) 実費徴収 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (目的: 陶芸実習材料費 金額: 1,000円) <input type="checkbox"/> 無
9	収支 (見込み)	講座に係る収支を記載 講座の回数を記入(公開講座を含む) ○ 受講料収入: 200,000円 (50名×4,000円) ○ 講師謝金: 210,000円 ※講師謝金一覧に基づく, 概ねの謝金額(交通費も含む) 【算出根拠】 <u>全回・大学教授クラス 30,000円×7回</u> <hr/> ○ 差し引き: ▲10,000円
10	スタッフ	7人程度(企画者5人, 運営ボランティア2人)
11	その他 特記事項	・陶芸実習を1回(1日)予定 ・期間については, 予定している講師の都合により「前期」にしか設定できません

No. \_\_\_\_\_

様式 2

平成31年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	
企画の目的 必要性・効果	
講座概要	
実施に伴う 課題・対応	
アピール ポイント	

回	期日	テーマ	ねらい	
1	月 日 ( )			
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
2	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
3	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
4	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	

平成31年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

<p>講座名 サブタイトル</p>	<p>今こそ陶芸から学ぶ ～世界，地域，教育の視点から陶芸について考える</p>
<p>企画の目的 必要性・効果</p>	<p>この講座は，実は「社会貢献活動」へのきっかけ作りを目的とする。東日本大震災以降，強く必要とされている，「人と人の絆」。現在も，被災地に対するボランティア活動などの取組みが多く行われている状況であり，「絆」の再構築を契機として，社会教育のあり方を見直す契機であるとも言われている。</p>
<p>企画した講座の趣旨（ねらい）や全コマ受講した後の効果を記入。また，特にターゲットとする受講者等がある場合には，その旨も記入。</p>	<p>この企画では，「陶芸」という文化的・趣味的な講座を前面に出しながらも，各講義の中で，陶芸を例示とした社会貢献活動に対する学びや，「ぎぶん展」に参画することで，『「地域貢献活動」の経験』と『「絆」の構築』に自然と関わっていくこととなり，また，受講された方々の経験の伝承などをおして，その家族や友人を含め「地域活動」への参加や「社会貢献活動」への参加にも繋がるものと考えている。</p>
<p>講座概要</p>	<p>陶芸の歴史は人の営みと共に古く，作陶技術は，時代を経て変遷し，生活に身近な器から心を豊かにしてくれる芸術作品までと，私たちとのかかわり方も幅広いものとなり，地域の観光振興や文化交流などに貢献する重要な地域資産ともなっている。</p> <p>本講座では，国際的な視点から陶芸の歴史や文化を学んでいく。多くの被災を受けながらも，今に受け継がれ進化を続ける，陶芸文化の力強さとその魅力に，グローバルな視点で注目していく。</p>
<p>講座の概要を明記してください（パンフレット参照）</p>	<p>また，文星芸術大学が取り組んでいる，陶芸を通じた特別支援教育現場との交流・地域活動等から，「陶芸の力が育む『人づくり』」や「陶芸の力が生み出した『ユニバーサルデザイン』」など，陶芸がもたらす様々な効果・効力を事例から学び，「陶芸」の今後の更なる可能性について学んでいく。</p>
<p>実施に伴う課題・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎぶん展」のバックヤード見学などがあることから，安全確保に十分に努める必要がある。実施に際しては，十分な事前の連絡調整，会場の下見などを事務局とともに実施することにより対応する。また，運営ボランティアの人数確保にも努める必要がある。</li> <li>・陶芸の実習を伴うことから，実習費が高額にならないよう，効果的・効率的な実施内容について，講師と調整・検討していく。</li> </ul>
<p>アピールポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方に人気がある講師から学べることから，定員を超える申込が期待できる。</li> <li>・「陶芸」に興味をもって参加した方に対し，講義や作陶による充足・満足感などの，いわゆる「個人の要望」に応えることはもとより，陶芸を通じた「人との絆づくり」や「社会貢献活動への直接参加」により，地域活動を積極的に盛り上げる人材の育成も行うことから「社会の要請」にも寄与する，大変有意義な講座であると考えている。</li> </ul>

コマごとの学習の「ねらい」について簡潔に記入

回	期日	テーマ	ねらい	
1	11月1日 (火)	戦乱と陶の歴史 (西洋と東洋の境界線～トルコの風～)	トルコの陶芸文化の力強さとその魅力について学ぶ。	
		内 容	学習方法	講 師
		日本と同様に地震の多いトルコでは、陶器も多くの被災を受けている。しかし、長い年月をかけて伝統を受け継ぎ、進化を続けている様子を講師の撮影した映像を交えながら学ぶ。	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	○○大学 教授 ○○○○ 氏
		テーマ	ねらい	
			具体的に肩書きがわかるよう記入 【例】 ・○○○審議委員会委員 ・△△病院 理学療法士 ※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	

コマごとの講義内容について、簡略に記入

具体的に肩書きがわかるよう記入  
【例】  
・○○○審議委員会委員  
・△△病院 理学療法士  
※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入

# 専門講座応募企画の審査について

## 1 審査方法

### (1) 予備審査

プレゼンテーション審査に先立ち、応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。(内容等確認のため、連絡する場合あり)

### (2) プレゼンテーション審査

- ① プレゼンテーション審査はコース別（郷土を愛する地域・文化・歴史コース，今を読み解く現代社会コース，暮らしを彩る教養コース）に行うこととする。企画運営者は、提出した企画書等に基づき、選考委員に対してプレゼンテーションを行い、質疑に答える。
- ② 選考委員は、審査項目の（1）から（5）について5段階評価で審査する。
- ③ 選考委員会は、審査結果をもとにコース別に順位を決定し、運営協議会に報告する。
- ④ プレゼンテーション審査は日時を設け、企画運営者からの説明 8 分，選考委員からの質問 5 分の計 13 分を目安とする。なお、企画応募数の状況により、説明時間等が変動する場合がある。

## 2 審査項目

(1)	社会ニーズ	社会の変化や要請，地域の特性や文化など，本市のまちづくりやコミュニティの発展，あるいは市民の郷土理解に資する社会的な視点やねらいが盛り込まれているか。
(2)	市民ニーズ	市民が求める高度で専門的な学習ニーズをとらえているか。
(3)	構成力	設定された講座のねらいに沿った各回の展開や組み立てがされているか，また実習やワークショップなど，学習効果を高めるための工夫がされているか。
(4)	運営力	適切な講師の想定，事前準備や講座運営に対する考え方など，確実に講座を運営していくための体制が整っているか。 <u>ただし，企画応募条件において，講師の確保までは求めないこととしているため，想定講師の受諾については審査に加味しない。</u>
(5)	発展性	講座を契機とするネットワークの形成，学んだことを実践し，生かせる仕組みづくりや導入，リーダー養成に資するスキルの習得など，受講者の行動や考え方の変化を促す効果があるか。

### 3 審査基準

各項目の審査基準は、下記の表のとおりとする。

選考委員1名につき25点満点とし、出席委員の合計点で評価する。ただし、分野別の講座数等も踏まえ、総合的に判断し選考することとする。

点数	審査基準
5	とても優れている
4	優れている
3	やや優れている
2	やや劣っている
1	劣っている

### 4 選考方法

宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会は、審査結果を宇都宮市民大学運営協議会に報告し、運営協議会は全体を調整・審議のうえで開催する講座を決定する。

## 宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について

### ○趣旨

宇都宮市民大学運営協議会（以下「協議会」という。）及び宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会（以下「選考委員会」という。）委員の委嘱期間満了につき新たな委員の選任について協議するもの

### 1 協議会及び選考委員会の所管事務等

名称	宇都宮市民大学 運営協議会	宇都宮市民大学 講座企画運営選考委員会
設置根拠	宇都宮市民大学 運営協議会運営要領	宇都宮市民大学 講座企画運営選考委員会運営要領
所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画講座の承認</li> <li>・運営に関すること</li> <li>・予算及び決算の承認</li> <li>・共催事業に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門講座企画運営（案）の審査 （Vスタッフが企画した専門講座の選考をするための組織）</li> </ul>
委嘱期間	2年（H30.9.1～H32.8.31）	2年（H30.9.1～H32.8.31）
開催回数	年3回	年1回
委員資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者</li> <li>・生涯学習関係者</li> <li>・講座企画・運営ボランティアスタッフ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者</li> <li>・生涯学習関係者</li> <li>・市職員</li> </ul>
委嘱者	学長（市長）	学長（市長）
定員 （現委員数）	10名以内 （10名）	10名以内 （10名）

### 2 委員選任の考え方

市民大学の事業を円滑かつ効果的に運営するための協議会と、専門講座の企画運営を行う選考委員会、それぞれの特性に対応できる委員を選任するものとする。

委員の選任にあたっては、学識経験者と生涯学習関係者、講座企画・運営ボランティアスタッフ等のバランスを考慮する。

### 3 次期委員（案）について

#### (1) 協議会委員（10名）

学識経験者	市内の高等教育機関との連携を促進するとともに、各校が有する講座開催に関するノウハウを市民大学に活かすため、 <u>各大学等関係者から4名</u> を選考する。	・宇都宮大学、 ・帝京大学、 ・宇都宮短期大学、 ・宇都宮メディア・ ・アート専門学校※
生涯学習関係者	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握するため、マスコミやボランティア関係者、生涯学習センター運営審議会等関係者から <u>5名</u> を選考する。	・栃木放送 ・下野新聞社 ・とちぎ未来づくり財団 ・NPOセンターぽぽら ・宇都宮市生涯学習 センター運営審議会
Vスタッフ	講座企画・運営ボランティアスタッフの視点を事業運営に反映するため <u>1名</u> を選考する。	・講座企画・運営ボ ランティアスタッフ

#### (2) 選考委員会委員（10名）

学識経験者	市内の高等教育機関との連携を促進するとともに、各校が有する講座開催に関するノウハウを市民大学に活かすため、 <u>各大学等関係者から4名</u> 選考する。	・文星芸術大学 ・作新学院大学 ・宇都宮共和大学 ・宇都宮メディア・ ・アート専門学校※
生涯学習関係者	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握した講座を提供するため、マスコミや県関係者から <u>3名</u> 選考する。	・エフエム栃木 ・とちぎテレビ ・河内教育事務所 ふれあい学習課
市職員	市職員等から3名選考する。	・生涯学習課長 ・中央生涯学習センター長 ・地域教育指導員

※ 協議会委員と選考委員の兼任

#### 【参考】

宇都宮市民大学運営協議会運営要領(抜粋)

第3条4 第2項の委員のうち1名は、宇都宮市民大学講座企画選考委員を兼ねるものとする。

宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会運営要領(抜粋)

第5条3 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会における選考状況及び結果を協議会に報告する。

【参考】高等教育機関関係委員の割振り

所 属	改選前		改選後		備考
	協議会	選考委員会	協議会	選考委員会	
宇都宮大学	○		○ (再任)		
帝京大学	○	○	○ (再任)		
文星芸術大学		○		○ (再任)	
作新学院大学 (作新女子短期大学)	○			○	新委員
宇都宮共和大学	○			○	新委員
宇都宮短期大学		○	○		新委員
宇都宮メディア・アーツ専門学校		○	○	○	兼任

【参考】イメージ図

宇都宮市民大学委員委員委嘱について

宇都宮市民大学運営協議会 委員名簿(平成30年4月1日現在)

No.	氏名	所 属	役 職	備 考
◎1	川本 清	帝京大学 宇都宮キャンパス	事務局長	学識経験者
○2	小太刀 忠治	宇都宮共和大学	事務局長	学識経験者
3	阿部 好子	宇都宮大学	企画広報部企画 広報課長	学識経験者
4	川島 育郎	株式会社栃木放送	報道制作局長	生涯学習 関係者
5	小林 治郎	株式会社下野新聞社	編集局総務部	生涯学習 関係者
◇6	小針 協子	とちぎボランティアNPOセンターほぼら	主任研究員	生涯学習 関係者
◇7	野中 正知	財団法人とちぎ未来づくり財団	事務局長	生涯学習 関係者
8	長谷川 京子	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 (31.6改選予定 更新なしとの情報あり)	委員	生涯学習 関係者
9	獅子員 久男	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ		Vスタッフ
10	山田 卓徳	作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部	事務局長	学識経験者

宇都宮市民大学運営協議会 委員名簿(平成30年9月1日～)

No.	氏名	所 属	役 職	備 考
1		帝京大学 宇都宮キャンパス		学識経験者
2		宇都宮短期大学		学識経験者
3		宇都宮大学		学識経験者
4		宇都宮メディア・アーツ専門学校		学識経験者 兼任
5		株式会社栃木放送		生涯学習 関係者
6		株式会社下野新聞社		生涯学習 関係者
7		とちぎボランティアNPOセンターほぼら		生涯学習 関係者
8		財団法人とちぎ未来づくり財団		生涯学習 関係者
9		宇都宮市生涯学習センター運営審議会		生涯学習 関係者
10		宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ		Vスタッフ

宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会 委員名簿(平成30年4月1日現在)

No.	氏名	所 属	役 職	備 考
◎1	川本 清	帝京大学 宇都宮キャンパス	事務局長	学識経験者
○2	島田 繁雄	宇都宮メディア・アーツ専門学校	校長	学識経験者
3	江田 社一	宇都宮短期大学	事務局長	学識経験者
4	佐藤 英雄	株式会社エフエム栃木	常務取締役業務 推進本部長	生涯学習 関係者
5	高田 玄	栃木県教育委員会事務局 河内教育事務所 ふれあい学習課	課長	生涯学習 関係者
6	野田 朝久	株式会社とちぎテレビ	放送本部長	生涯学習 関係者
7	丸山 純一	文星芸術大学	教授	学識経験者
8	増淵 重子	宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課	課長	市
9	鷺谷 文子	宇都宮市教育委員会事務局 中央生涯学習センター	所長	市
10		宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課 人材かがやきセンター	地域教育指導員	市

宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会 委員名簿(平成30年9月1日～)

No.	氏名	所 属	役 職	備 考
◎1		宇都宮メディア・アーツ専門学校		学識経験者 兼任
2		文星芸術大学		学識経験者
3		宇都宮共和大学		学識経験者
4		作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部		学識経験者
5		株式会社エフエム栃木		生涯学習 関係者
6		栃木県教育委員会事務局 河内教育事務所 ふれあい学習課		生涯学習 関係者
7		株式会社とちぎテレビ		生涯学習 関係者
8	増淵 重子	宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課	課長	市
9	鷺谷 文子	宇都宮市教育委員会事務局 中央生涯学習センター	所長	市
10		宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課 人材かがやきセンター	地域教育指導員	市

◎…会長、委員長 ○…副会長、副委員長 ◇…監事